

京都教区時報

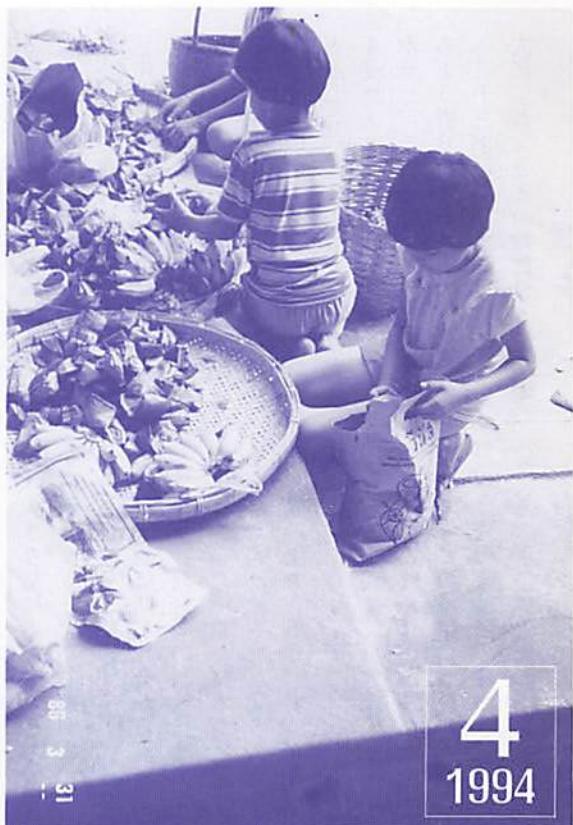
第197号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F



4
1994

分かち合う かなしみの 人こそうれし
ちちの愛 知りてうれしや
あいし合う 人の交わり
うまし世に 輝きわたる

ことここに 救いはなれり
とうとくも 神のいのちは
この世にも すでに輝く
そだちゆく 齢と共に
うつくしき 恵みあふれて
れいこんは 人を満たせり
しあわせは 君にあれませ

人々の 深き思いは
のぞみなき 人を包みて
愛し合う 人を生むなり

復活の 主に出会うなら
生き生きと 神のいのちを
おおいなる 喜びを知り
祝いつつ 楽しくなれり
うまれくる 光のうちに

人々は 愛を知りたり
人の間 愛生れたり
のこりなく 捧げ合いつ
群集い 神を讃えん(MT)

※写真はタイの農村の復活祭の日の一場面。
人々は捧げ物をし、分から合います。

家庭傳教宣教

私
は四十数年前に、父・姉とど
もに幼児洗礼を受けた。その
家庭にある宣教

ざまな苦難にあい、キリストとともに、痛みを分かち合っていかなければならぬのだろうか。自分を無にして、神にゆだねた時に、始めて救いがきた。

おりしてきたら、社会に出ても近道だった。友達が大学までいた間僕は必死で寝る間も少なくし、からだを使って働いて生きてきた。でも、社会生活をする人間関係で

教会へ初めて入った沢山の若者達は、「結婚とは何か」とか、「子供は神からの恵みなのだから、両親は子育てにおいて重大な責任がある。」等々の神父様の話に、現代

後、受洗により父が変われば母も受洗すると言つてたが、シスターの「御主人を見ないで、神様を見下さい」との指導で、母は妹と

私の子育ての経験を述べてみた
いと思います。私達夫婦は、
一才違いの長男・次男を育てる時

高校の時、勉強なん
もう一度やり直すの
しい」と言つて来た

現在は、単位制の学校へ通い、あと一ヶ月で卒業です。親が

により、ずい分と、結婚式場も宣教の場となります。

受洗の恵みをいただき、幸せな一生を送りました。

しかし、思春期になつた長男は両親の価値観の押しつけが、たまらなくなり、何かにつけて反抗す

いくら口で諭すより、自分で経験し悟つた時は、責任を持って成しへます。何ぞここに持がまひま

中学・高校とミッションスクールに通い、反発しながら、システムの宗教教育を受けた。非受洗

しかし、思春期になつた長男は、両親の価値観の押しつけが、たまらなくなり、何かにつけて反抗するようになった。親・教師等、太人の言う事にことごとく反発し、

者の夫と、教会で結婚式もあげ、四人の子供達に恵まれたが、若いい日々に、教会へ通うのを苦痛に感じたり、教えが、心の負担になり、煩わしく思う事も多かつたが、主人と子供達を連れて、日曜ごと教会へ通つた。

禁止される事を次々とした。高校三年生の十二月に、校長先生より退学を求められ、退学せざるをえなくなってしまった。その時にこの子の味方になり、暖かく、見守つてやるのは、我々夫婦と家族だけ話し合い、すべてを許し、全て

四人の子供を、夢中で育てたが、四十才を過ぎて、多くの試練にあつた時、信仰を持った事を、心よ

を受け入れ、神に我が子を、おまかせし、この子に道を示して下さるよう祈り続けた。

り神と両親に感謝できた。人間は神のもとへ招かれるまでに、さま

二十三才になつた時に、息子が夫に「お父さんの常に言つてたと

昨秋に息子が結婚すると相談に
来た。十数年間も教会から遠ざか
つていた。教会での挙式には多々
障害があった。幸いにも、放蕩息
子を迎え入れてくれた父のような、
神父様の協力を得て、すばらしい
式が出来た。

家庭の宣教も、思いがけぬ形となりやつてくる。私の友も、障害の兄と弟を持ち、手のかからぬ弟が、受験期に家庭内暴力になり、大変な苦労をされた。しかし、母は自分を無にし、神に依り頼み統け、すばらしい祈りで、御主人と

いくら口で論すより、自分で経験し悟った時は、責任を持って成し上げます。何ごとにも時があります。大きな気持ちで時を待ち、主を信頼しようと思つてます。

子 育てを通して、色々と悩み苦し
んだが、息子が神の道具とな
り、両親を成長させてくれた事を
感謝します。

彼女の両親は、自分達の結婚が一度失敗に終わり、再婚なので、ずいぶんこの結婚にも反対された。

兄を洗礼まで導いていかれた。彼女の愛と、周囲の人々の祈りで、奇跡どしかおもえぬ変化が現れた。

母親は式の直前に駆けつけてくれて、涙・涙の式となつた。

神は、苦労や困難を通して人々を導き成長させられる。主に感謝。

今年の京都教区時報(12月1日発行)で聖ドミニコ宣教の時代と福祉コースの記事を拝見しました。少なからず時報愛読者にとって我が家身も含めて今こそ共に考えなければならぬい時を得たと大切な呼びかけをくださったと感謝いたします。

●ほんものの豊かさを

21世紀の初頭にやつてくる避けることのできない日本の超高齢者社会は本当に長寿社会と言えるかをみんなで問い合わせる必要をひしひしと感じます。出生人口の低下(一人の女性の出産率1.3人)という現実は、超高齢化社会を生む大きな要因となっていることも述べられている『ほんものの豊かさ』には深い共感を覚えます。

先の京都教区時報でSr.藤本氏が述べている『ほんものの豊かさ』には深い共感を覚えます。

尺度、生活本意の感覚を経済や社会の中に持ち込んで行くことが求められる。平たく言えば、人と暮らしにやさしい社会づくりということになる。

一口に高齢者と言つても現実は健康な人ばかりでなく介護を必要としている高齢者の方も多い。子と同居している人もいれば一人暮らしの人もいる。経済的に余裕のある人ばかりではない。自宅にい

共に考えよう21世紀の福祉を

特別養護老人ホーム神の園
施設長 高田 全康

昨年の京都教区時報(12月1日発行)で聖ドミニコ宣教の時代と福祉コースの記事を拝見しました。

少なからず時報愛読者にとって我が家身も含めて今こそ共に考えなければならぬい時を得たと大切に感謝いたします。

私たちのおかれている老人福祉の分野では全国社会福祉協議会の中の全国老人福祉施設協議会があり、日本カトリック司教協議会・社会福祉委員会カリタス・ジャパンの中に日本カトリック老人福祉施設協議会があります。

前者を略して全国老施協の通信(昨年11月号記事抜粋)の中に『ゆとり、豊かさを実感できる』といふことは大きな意味では経済全体の豊かさと一人ひとりの生活実感が同じになることではないか。しかし、我が国の経済力と高齢者の生活との落差はあまりにも大きく、国民一人ひとりが生涯をとおしてゆとりと豊かさを実感できるようにするために、産業や企業の考え方を経済、社会の中に持ち込むのではなく、これからは人間中心の

福祉施設にいる人もある。福祉施設に入りたくても入れずに空きを持っている人も多い。様々な高齢者がいる。高齢者の方々にはいわゆる「平均値」の世界は通用しない。大事なことは、一人ひとりの高齢者の生活や意見にしっかりと目を開き耳を傾け、実態やニーズを具体的に摑む事ではないか。これらは、量だけではなく一人ひとりに合わせた質の充実も重要である。

福祉や環境にお金や人手をかけることは、とかく無駄とか非効率と見られがちであったが、本当にそうなのか見直す時期に来ています。



●21世紀にむかつて

このような福祉分野の様々な活動の情報が教会共同体の隅々まで行き渡り、福祉は福祉分野だけの役割でなく、NICE2の精神に基づくキリストのからだの家庭の切実な問題として、明日は我が身の福祉として、来る21世紀に向かってまさに物の時代から心の時代への真の展開をともに考えて行けることを願わずにはいられない。

やればできるの証明



精華教会で献堂式

の世界を思われます。

努力しました――

空間です（写真参照）。ジュウタンは正面の壁まで立ちのぼっています。「主に至る道」と考えていただいても、恵みが十字架のあがないと祭壇の秘跡を通つて私たちのところに来ると見ていただき結構です。

十字架は旧聖堂の古材を使つて作られ、床面から直接立つています。すべてふだはヘブライ語・ラテン語・ギリシャ語でナザレのイエス・ユダヤ人の王と全文書かれていました。あえてキリスト像を付けませんでした。実物大に近い大きさの十字架です。見る人は自然にご受難・ご死去・ご復活をも黙想できるでしょう。

祭壇のためのステージはありません。同じ平面で主の食卓を囲む

ました。

道路側の窓は二重窓にして騒音を遮っています。落ち着いた空間にするため窓は小さくしています。天井はゆるやかなドームになつています。そのため特に中央部では残響があります。照明はダウンライトで星空のような、または光

ちは手作りケーキを持って近隣の教会を訪ねて販売させていただき、教会で廃品回収をして資金作りとし、みなで高額の拠出金を負担しました。なみたいていの努力ではありませんでした。しかし自分の聖堂を持とうとの意気込みで一致してここまで来ることができました。

隠れた功労者の一人はロバート・ヒューズ神父様でした。神父様の方々に紙面をお借りしてお礼申しあげます。

現代の典礼に合わせて工夫された聖堂です、ぜひ一度お訪ねください。

ブル崩壊後あまり進展していない批判もありますが、今年町開きの行事が組まれています。内外の研究者の来訪もあると考えられる教会です。開かれた心でお迎えしなければならないでしょう。

う。

地域社会に寄与するため、文化の発信基地となること、そのためにはどんな共同体にしなければならぬか。新しい革袋に、宿題はあります。

たくさんあります。

建物のあらまし――
玄関のひさしと土間タイルは、「人を漁る網」を表す格子状になっています。段差をなくしスロープで車椅子のまま入れます。

玄関ホールの正面にはファチマの聖母像とその後ろは1917年の聖母像とその後ろは1917年10月13日、最後のご出現の太陽の異変の奇跡をステンドグラスで描いています。右に折れて聖堂で、正三角形の

「人を漁る網」を表す格子状になっています。段差をなくしスロープで車椅子のまま入れます。

祭壇のためのステージはありません。同じ平面で主の食卓を囲む

ました。

道路側の窓は二重窓にして騒音を遮っています。落ち着いた空間にするため窓は小さくしています。天井はゆるやかなドームになつています。そのため特に中央部では残響があります。照明はダウン

ライトで星空のような、または光

これから課題――

全国的な知名度は低いのですが、精華町は関西文化研究都市の中心に位置します。民間の資金を頼りに計画された学研都市ですから



伊達さん(子羊会会長)帰天

あなたのベッドは祭壇であり、車椅子は教会でした。――

子羊会会長として人々から敬愛

されてきたマリアメルセデス伊達よしえさんが、去る1月15日帰天されました。1956年に子羊会発足以来、常に会の中心として会を導いて来られました。故人を偲ぶ文章をここに掲載します。

京都の子羊会の皆さん。皆さん の巡礼のみのが一粒のからし種となつて宣教に役立つよう祈ります。

1990年7月9日から23日迄、子羊会の人達と共に巡礼の旅に行きことができた折に教皇様より言葉を賜りました。



1990年7月9日から23日迄、子羊会の人達と共に巡礼の旅に行きることができた折に教皇様より言葉を賜りました。

今日、おばちゃんのおそう式に行きました。おばちゃんは、20才の時からリウマチで、車イスでしか動けませんでした。

私がまだ、歩けないころは、こひつじ会に行くと、車イスのおばちゃんのおひざの上が、私のとくとう席で、おばちゃんは、まがつた手でおちないように、もつていてくれたそうです。

幼稚園に行くようになったころから、おばちゃんの車イスを押すのが当番でした。と言うより、押したかったのです。まっすぐに押せなくとも、こわくとも、おばち

告別式で神父様は「伊達よしえさんのベッドは祭壇であり車椅子は教会でした」とすばらしい言葉を説かれました。

心より御冥福をお祈り申し上げますとともに、生前の伊達さんの心を大切に皆で明るく助け合つてがんばってゆきたいと思います。

(子羊会代表 永島)

「リウマチで動けないのに、ガンなんてひどすぎるね」ってみんなで言っていたけど、おばちゃんは、「神様からのプレゼントよ」と、を説かれました。

心より御冥福をお祈り申し上げますとともに、生前の伊達さんの心を大切に皆で明るく助け合つてがんばってゆきたいと思います。

(子羊会代表 永島)

「ありがとうございます」と言つたそうです。私もおわかれの時に「おばちゃんがんばったね。私もがんばるよ。がんばったね。私もがんばるよ。」

おばちゃんは、天国に行く前に

「ありがとうございます」と言いました。

おばちゃんは、ほんとうに明るくて、強い人でした。(川淵二三)

● ● ●

伊達さんにとって、ベッドと車椅子が祭壇であり、説教台であり、人々に耳を傾け慰め励ます宣教の場であった。又、手紙と電話は彼女との靈的な交わりの最も有効な手段であつた。彼女はまさに障害者の故に、障害者としか出来ない福音宣教の先端を行く人であつた。

彼女の働きは私達司祭・修道者にまさるものがあつたとさえ言える。しかし、この働きの影にいつも支え寄りそつて彼女の手足と

なつた、妹田鶴子さんの献身なくして彼女のこのすばらしい生涯は考えられないし、又、この二人を

実際に温かく尊敬を持つて支えた弟

一郎さん御一家、更に、本当に数多くのボランティア(友の会)の人々の心あたたまる支えが、彼女の功績を輝かしている事を感謝したい。

● ● ●

やは、がまんしていくくれたんだと、今になつて思います。

そんなおばちゃんは、今からなん年か前にガンになりました。

「リウマチで動けないのに、ガンなんてひどすぎるね」ってみんなで言っていたけど、おばちゃんは、「神様からのプレゼントよ」と、ニコニコしていました。

おばちゃんは、天国に行く前に

「ありがとうございます」と言つたそうです。

私もおわかれの時に「おばちゃんがんばったね。私もがんばるよ。」

おばちゃんは、ほんとうに明るくて、強い人でした。(川淵二三)

● ● ●

伊達さんにとって、ベッドと車椅子が祭壇であり、説教台であり、人々に耳を傾け慰め励ます宣教の場であつた。又、手紙と電話は彼女との靈的な交わりの最も有効な手段であつた。彼女はまさに障害者の故に、障害者としか出来ない福音宣教の先端を行く人であつた。

彼女の働きは私達司祭・修道者にまさるものがあつたとさえ言える。しかし、この働きの影にいつも支え寄りそつて彼女の手足となつた、妹田鶴子さんの献身なくして彼女のこのすばらしい生涯は考えられないし、又、この二人を実際に温かく尊敬を持つて支えた弟一郎さん御一家、更に、本当に数多くのボランティア(友の会)の人々の心あたたまる支えが、彼女の功績を輝かしている事を感謝したい。

みことばをかこう

書道展・絵画展から

昨年の聖書週間行事としての「みことばをかこう書道展・絵画展」は、11月16日(火)から11月26日(金)までの11日間、西院カトリック会館ホールで開催されました。

今回は書道展が12回目、絵画展が6回目。今回も京都教区内の一般・幼・小・中・高校生から素晴らしい力作が寄せられ、会場は大変豊かになりました。書道は成人が37点、児童（高校生を含む）が172点、絵画は成人が4点、児童が18点と、絵画が

昨年よりも少ないのが少々淋しい感じでした。やはり聖書のみことばを絵に表現するのは、「書」よりも易しくないからでしょうか。しかし、今回は、河原町教会の土曜学校の児童が「聖書カルタ」を出品してくれて、楽しい一場面もありました。5才児と一年生の兄弟の合作による「バベルの塔」も迫力があり、素敵でした。その他、祈りながら書かれた新約聖書の書写全巻、点字聖書の展示などがありました。

西院会館で開催されるようになつて4回目ですが、河原町会館の時より鑑賞者が少ないのは残念です。まだまだ西院会館が不便な所としての印象が強いのです。慣れればそんなに不便なところでもありませんので、今年は是非見に来て下さいますよお待ちしています。



1994年度／聖書講座

聖書講座シリーズも10回目を迎え、今年は「私の聖書の読み方」がテーマです。今年も5月18日(水)、5月19日(木)からはじまり、10月26日(水)、10月27日(木)まで開講いたします。（8月はお休み）今年は修道者の方々にも呼びかけることになりました。どうぞ聖書により親しむ機会としてご利用下さい。

- ◇テーマ 聖書の読み方について
- ◇対象 どなたでも
- ◇期間 1994年5月～10月の5ヶ月間（8月は休講）
 - 〔水曜日・夜コース……午後7:30～9:00〕
 - 〔木曜日・昼コース……午前10:00～11:30〕
 内容は同じです。どちらか都合のよいコースをお選び下さい。
都合により夜・昼変更可。
- ◇場所 西院カトリック会館1階（京都市中京区壬生淵田町26）
- ◇費用 5,000円 費用は当日受付で、お支払い下さい。分納也可。
- ◇講師 中川師、本田師、大塚師、村上(ト)師、西野師、森田師、Sr.安藤、Sr.皆福、Sr.石崎などの方々を、予定しています。
- ◇申込先 〒604 京都市中京区壬生淵田町26 西院カトリック会館内
カトリックきょうと福音センター内「聖書講座シリーズ」係
- ◇申込締切 4月30日(土)
- ◇問合せ カトリックきょうと福音センター内「聖書シリーズ」担当者
柳本神父、又はSr.福島まで
- ◇主催 TEL 075-822-7123 (am.10時～pm.5時まで)
京都教区聖書使徒職委員会

今年の一月十五日をもって青年センターは、
えました。**五周年**

世界的行事に京都教区として対応するための企画を立案する。

あんてな (((((())))))

青年センター
5周年に寄せて

青年センターとは、どんな所で何をする所なのか?もう一度振りかえつてみたいと思います。

理念——現代社会にあって、青年一人一人が交流を深めキリスト者として生きる喜びと共に分かち合い、育て合う。

機能——●情報システムのキーステーション。京都教区内内外の青年活動状況の把握とその情報交換の仲介。機関誌「Giovanni」の発行。●相談機関。京都教区内の各ブロック、青年諸活動グループが活動する上で種々の情報を集積し、また個人的な相談、精神的支えにもなる様な相談機関。●企画・立案。

個人、教区、諸活動グループからの企画に基づき必要により行事を企画、または協賛する。全国的行事、全

年のです。ですから、青年センターは青年達のたまり場というわけではありません。また「青年センターは何もしてくれない」という言葉もちよつと筋ちがいだと思います。受動的ではなく能動的に活用して下さい。

というのが青年センターのものです。ですから、青年センターは青年達のたまり場というわけではありません。また「青年センターは何もしてくれない」という言葉もちよつと筋ちがいだと思います。受動的ではなく能動的に活用して下さい。

そこで青年センターでは、五年周年のお祝いをします。四月十六・十七日に園部教会において、ミサ・パティー・交流会を中心に行います。詳しくは、各教会のボスター・チラシを見て下さい。尚、当日は青年センターの運営委員会も併せて行います。下さる。尚、当日は青年センターをもつと知りたい人、自分の教会以外の人と親しくなりたい人はぜひとも御参加下さい。

青年センター運営委員・京都南部 池田 誠

去る1月22日、1994年度の京都教区平和への歩み第1回実行委員会が行われ、以下のことが話されました。

一 各ブロックの行事報告

二 教区行事について

三 教区委員会の開催

四 年2回とする。

1月 前年度報告、教区テーマ決定

4月 行事の具体化

なお、8月に各ブロック行事の中間報告を提出する。

四 今年のテーマ

・1月1日の教皇平和メッセージ

家庭こそが人類家族の平和をつくる

家庭こそが人類家族の平和をつくられる、とする。

94年教区平和への歩み実行委員会

去る1月22日、1994年度の京都教区平和への歩み第1回実行委員会が行われ、以下のことが話されました。

五 次回は4月9日に開催。

教区のテーマについては、教皇の意向、教区テーマ、地区テーマなどが重なることもあり、司教の提案を受けて、教皇の1月1日、平和メッセージのテーマとして同じものにしました。

今年は国連の国際家族年でもあります。日本の教会では昨年、N.I.C.E.2が「家庭」というテーマで行なわれました。しかし、世界の現実を見ると、家庭が社会の波におぼされ、戦争や騒乱の犠牲となっています。そして、貧困が多く、その家庭を脅かしています。国家はそのような平和を阻害する原因を取り除く努力をする必要がある、と教皇も述べています。

わたしたち京都教区でもこの意向に応えて一步一歩、平和を築いていきましょう。(京都教区平和への歩み実行委員会)

4月

教区スケジュール

- 1日(金)聖金曜日
2日(土)聖土曜日・復活徹夜祭
3日(日)子羊会復活祭(高野教会)
▽結婚互助会相談室
(河原町会館 13時半)
- 6日(水)雑学講座(西院会館)
- 8日(金)入学式(洛星中高等学校)
▽信睦二会(西陣教会)
- 9日(土)教区平和への歩み委員会
- 10日(日)ダフィ神父追悼ミサ
(九条教会) 9時半
- ▽衣笠墓地管理委員会
12日(火)入学式
(聖マリア養護学校)
- 16日(土)部落問題委員会現地学習
16日(土)青年センター運営委員会
5周年記念の集い(園部)
- 16日(土)部落問題委員会現地学習
16日(土)青年センター運営委員会
5周年記念の集い(園部)
- 16日(土)全国カトリックボランティア会(野外礼拝センター)
- 20日(木)YBU理事会
- 21日(木)司教顧問会(河原町会館)
▽京都南部及び教区司祭月例会(河原町会館)
- 22日(金)信徒使徒職養成コース・祈りのコース1(唐崎祈りの家)
- 24日(日)FABC諸宗教会議・田中司教参加(タイ)
- 28日(木)ペリー二師の聖書講座(西院会館) 14時

△糠みその会(九条教会)
29日(金)京都南部南ブロック
近隣小教区運動会
▽三重ウォーカソン

お知らせ

▼司祭の異動(4月4日付)

○伏見・桃山・八幡共同司牧
筆頭責任 ウォルケン師(桃山在)

○大津・唐崎・安曇川共同司牧
筆頭責任 西野猛生師(大津在)

共同司牧 福岡一穂師(大津在)
共同司牧 エミリオ師(唐崎在)

○高山師 京都教区より退職
西野猛生師(大津在)

○滋賀働く人の家担当 福岡師
福岡一穂師(大津在)

○滋賀働く人の家担当 福岡師
福岡一穂師(大津在)

▼福音刷新コース1

内容・聖書の分かち合い
日時・4月30日(土)～5月3日(火)

場所・名古屋研修センター
費用・2500円

問合せ・研修センターまで
052-831-5037

問合せ・研修センターまで
052-831-5037

費用・2500円

問合せ・研修センターまで
052-831-5037

問合せ・研修センターまで
052-831-5037

日時・4月17日(日)13時出発
集合場所・河原町教会

申し込み・人數制限があり先着順
案内・平井正治さん(釜ヶ崎の語
り部)、西野猛生さん(教区司祭)

問合せ・部落問題委員会
案内・平井正治さん(釜ヶ崎の語
り部)、西野猛生さん(教区司祭)

▼信徒使徒職養成コースの案内

第95回祈りのコース1
日時・4月22日(金)～24日(日)

場所・唐崎祈りの家
費用・1700円

問合せ・福音センターまで
075-822-7123

問合せ・福音センターまで
075-822-7123

聖ヴィアトール北白川教会納骨堂

御関心がおありの方は下記まで
お気軽に御連絡下さい。

住所 〒606 京都市左京区北白川西萬町22
電話 075(781)5884 FAX 075(781)5428
係 ブラザー・オーベン／松岡

事務取扱い時間 (午前) AM10:00～12:00
(午後) PM2:00～4:00

あなたの良き隣人として
カトリック御葬儀貸物一式(仏式可)
聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
(西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
☎ (075)312-7829